

部会長名 校長 井上 修一
実践者名 教諭 福田 和憲

1 研究主題

インプットからアウトプットへとつなげる段階的な表現活動の工夫
～ サイトトランスレーション・シートを用いたペア学習の工夫 ～

2 主題設定の理由

『中学校学習指導要領解説外国語編』では、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することが目標とされている。また、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要とされている。さらに、「話すこと（やりとり）」が新たな領域として設定されるなど、実際に英語を使ったコミュニケーションを繰り返し行うことで、総合的に英語の運用能力を高めることが求められている。

これまでも単元末や、ALTとの授業等で、パフォーマンステストとして「話す事（やりとり）」の活動を行うことはあったが、使用する言語材料が絞られてしまうことや、習熟のための時間設定が難しいなどの課題があった。特に英語を苦手とする生徒は、自信をもって臨むことが難しく、あきらめてしまうこともあった。これらの課題解決に向け、言語材料の幅をある程度持たせたやりとりについて、モデルの練習（インプット）から自己表現（アウトプット）まで段階的に進むことができる表現活動を行うことが必要であると考え、本主題を設定した。

3 主題・副題の意味

（1）主題について

研究主題

「インプットからアウトプットへとつなげる段階的な表現活動」とは、生徒に発信させたい内容を表現するモデル文を、様々な練習方法を段階的に組み合わせたインプット活動を継続的に行わせることで、次第にモデル文を活用した生徒自信の表現であるアウトプットへと発展させていく表現活動である。ここでのインプットとは、音声としての英語表現のインプットだけでなく、英語表現と意味（日本語訳）を結びつけたインプットや、英語表現と文字（英語表記）とを結びつけるインプットと組み合わせて行われるものである。またアウトプットとは、口頭での自己表現を英語で行うアウトプットをだけでなく、そこを目指して、モデル文を読み上げるアウトプットやモデル文の一部を自身のことに置き換えるアウトプット等を段階的に組み合わせたものである。

(2) 副題について

「サイトトランスレーション・シート」とは、英文と和訳が対になって書かれている学習プリントである。今回は会話形式のもの（すらすら英会話：資料1）と1年生の教科書で取り扱う基本的な言語材料を用いた表現（すらすら基礎表現：資料2）の2種類を準備した。サイトトランスレーション・シートの作り方には、英文をチャンク毎に改行して表記するものもあるが、本実践においては1文ずつ改行して表記したものを作成した。

「ペア活動の工夫」とは、サイトトランスレーション・シートを利用し、ペアで行う様々な活動を、モデル練習から自己表現へと段階的に発展させていく継続的な指導の工夫である。今回は、帯学習として2学期の毎授業において取り組み、3つのペアを活用して繰り返し練習させる活動を行った。「すらすら英会話」と「すらすら基礎表現」を交互に1つずつ授業で取り扱い、練習方法を様々に組み合わせる。「すらすら英会話」については、会話文を音読し英文の音と意味をインプットする活動から、会話文の中身を自分たち自身のこと置き換えてアウトプットする活動へと段階的に変化させていく。最初の段階では質問も返答も書かれている順に音読のみを行う。次の段階では、質問の順をランダムに音読させ、返答はできるだけ紙を見ずに行わせる。次に、質問はランダムに音読させ、返答は内容を自身のことや実際のことに置き換えて行わせる。最後の段階では質問内容も、名詞や動詞を置き換えることで自分の質問したい内容を尋ねさせ、返答もそれに合わせて行わせる。

すらすら英会話		No. 1
1 Hi, how are you? I'm fine too thank you.	A 元気? 元気だよありがとう	B I'm fine thank you. And you? 元気かい そっちは?
2 Are you Kota?	あなたは何かい?	Yes, I am. そうです。
3 Are you from America?	アメリカ出身かい?	No, I'm not. 違います。
4 Where are you from?	どこ出身かい?	I'm from Japan. 日本出身かい。
5 Do you play soccer?	サッカーするかい?	Yes, I do. するかい。
6 Do you play the guitar?	ギター弾くかい?	No, I don't. 弾かないかい。
7 What sports do you play?	スポーツ何するの?	I play basketball. バスケするかい。
8 Do you like Japanese food?	日本食好きかい?	Yes, I do. 好きかい。
9 What Japanese food do you like?	日本食で何好きかい?	I like sukiyaki. すき焼きかい。
10 What color do you like? I like orange.	何色好きかい? オレンジ好きかい。	I like green. How about you? 緑好きかい。あなたは何かい?
11 Do you have any pets?	おしやペット飼っちゃおうかい?	Yes, I do. 飼っちゃおうかい。
12 What pet do you have?	ペット何飼っちゃおうかい?	I have two dogs. 犬2匹かい。

・みんなが活動する。
・間違いを楽しく。
・感謝の気持ちを忘れずに。

【資料1】

すらすら基礎表現(1年)		No. 1
1 Good morning.	英	おはよう。
2 Good afternoon.	日	こんにちは。
3 Good evening.		こんばんは。
4 I'm [I am] Gabrielle.		私はガブリエルです。
5 (Please) call me Gabi.		ガビーと呼んでください。
6 Are you a junior high school student?		あなたは中学生ですか。
7 I'm in the judo club.		私は柔道部です。
8 I'm not from Fukui.		私は福井出身ではありません。
9 Are you from New York?		あなたはニューヨーク出身ですか。
10 I'm a baseball fan.		私は野球ファンです。
11 Here you are.		はい(どうぞ)。
12 Thank you.		ありがとう。
13 You're welcome.		どういたしまして。
14 Nice to meet you.		初めまして。(お会いできて嬉しいです)
15 This is my racket.		これは私のラケットです。
16 That is your desk.		あれはあなたの机です。
17 This isn't [is not] my notebook.		これは私のノートではありません。
18 That's [That is] not your umbrella.		あれはあなたの傘ではありません。
19 Is this a new store?		これは新しい店ですか。
20 Is that a Japanese restaurant?		あれは日本食料店ですか。
21 Mr. Fukuda is our English teacher.		福田先生は私たちの英語の先生です。
22 He is my friend.		彼は私の友達です。
23 She is my sister.		彼女は私の姉(妹)です。
24 He is not from America.		彼はアメリカ出身ではありません。
25 Is Tom a good tennis player?		トムは上手なテニス選手ですか。
26 Is Judy a member of the soccer club?		ジュディはサッカー部の一員ですか。
27 I know about judo just a little.		私は柔道について少しだけ知っています。
28 I like music.		私は音楽が好きです。
29 Do you play the piano every day?		あなたはピアノを毎日弾きますか。
30 I don't practice the piano at home.		私は家でピアノの練習をしません。

【資料2】

4 研究の目標

第1学年外国語科において、インプットからアウトプットへとつなげるサイトトランスレーション・シートを用いた段階的なペア学習の有効性を究明する。

5 研究仮説

第1学年外国語科の単元指導計画に位置づけた、サイトトランスレーション・シートを用いた段階的なペア学習を行えば、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することができるであろう。

6 研究の計画

(1) 期間

第1学年の2学期始め～3学期終わり

(2) 内容

すらすら英会話（資料1）とすらすら基礎表現（資料2）を活用した表現活動とパフォーマンステスト

(3) 評価

パフォーマンステストと実力テスト

7 指導の実際

(1) 授業の流れ

	学習活動・内容	指導上の留意点	評価基準・方法	配時
導入	1 ウォーミングアップ (1) 挨拶と曜日などの確認 (2) フラッシュカード(復習) (3) すらすら英会話 (又は、すらすら基礎表現) (4) フラッシュカード(本時) (5) めあての確認	○飽きさせず、実用的な表現の練習となるように、段階的に活動の難度を上げ、様々な方法を組み合わせる。		15分

(2) 授業内の活動

① すらすら英会話

サイトトランスレーション・シートを用いて3つのペア（隣ペア・縦ペア・斜めペア）で1分間ずつ英問英問を行う。活動の初期は、モデル対話をそのまま順番に読む活動を行い、次の段階では質問はそのまま、応答は自身のことについて表現させる。最後の段階では、質問内容もモデル文を応用したものに変え、順番もランダムに行わせる、応答もそれに対応させる。

② すらすら基礎表現

サイトトランスレーション・シートを用いて3つのペア（隣ペア・縦ペア・斜めペア）で1分間ずつ練習を行わせる。練習は以下の7種類を組み合わせながら行っていく。じゃんけんに勝った方がA、相手がBとなる。

ア Small Teachers

・ A が英文を読む → B は英文を見ながらリピートする

イ Two-One Method

・ A が英文を2度読む → B は何も見ずに1度リピートする

ウ Quick Response (英→日 と 日→英)

・ A が英文を読む → B はすぐに日本語を言う (逆バージョンも)

※慣れてきたら B は見ずに言う

エ Back Translation

・ A が英文を読む → B が見ずに日本語を言う → A が見ずに英文を言う

オ Read and Look-up

・ A が” Read!” と言い、B は英文を黙読する

→ A が” Look up!” と言い、B は顔を上げてアイコンタクトをとる

→ A が” Say it!” と言い、B は顔を上げたまま英文を言う

カ Dictation

・ A が1文ずつ英文を読む

→ B は聞いた英文を英語で書く

→ 書き終えたら2人でスペルを確認する。

※聞き取れないときは繰り返し読んでもらう。

キ Listen and Draw

・ A が英文を読む → B は聞いて内容を絵で表現する

(3) 評価

① すらすら英会話

ALT との授業で2度パフォーマンステストを行った。1度目は Are you~? と Do you~? を用いた表現の中から、サイトトランスレーション・シートにある質問そのままを3つと、変化させた質問1つを尋ね、答えさせた。なお、どの質問をされるかは事前にわからないよう、質問は複数の中からランダムに出題した。

2度目はサイトトランスレーション・シートにある質問を応用した疑問詞 what / what time / how many / who / whose を用いた質問の中から3つを尋ね、答えさせた。

② すらすら基礎表現

パフォーマンステストとして、暗唱テストと筆記テストを行った。また、定期テストで、モデル文を応用した英文を書かせた。和文英訳とならないように、場面や伝えたい内容を指示することで、適切な表現を考え書かせる形式とした。

8 研究のまとめ

(1) パフォーマンステストの結果からの考察

すらすら英会話のパフォーマンステストの結果は以下の通りである。

パフォーマンステスト（1回目）～ Are you / Do you ～			
質問の種類	適切・正確な返答ができた	ミスを含むが返答できた	返答できなかった
モデル対話のまま	92.6%	7.4%	0%
モデル対話のまま	84.0%	16.0%	0%
モデル対話のまま	89.7%	8.8%	1.5%
応用した質問	68.0%	26.9%	5.1%
パフォーマンステスト（2回目）～ What / What time / How many / Who / Whose ～			
	適切・正確な返答ができた	ミスを含むが返答できた	返答できなかった
1問目	69.3%	24.0%	6.7%
2問目	76.0%	18.7%	5.3%

1度目のパフォーマンステストでは、モデル対話のままの質問に対しては、ほぼ全ての生徒が返答することができており、その正確性も約90%弱とかなり高くなっている。このことから、Are you / Do you の2種類の質問に対して、表現の違いをとらえ適切に答えることができるようになったと考えられる。また、応用した質問に対しても、約70%の生徒が適切・正確な返答ができ、ミスを含む返答も合わせると、約95%の生徒が、質問の内容を理解して返答することができている。このことから、疑問詞を含む質問についても質問内容を理解し、自分なりの言葉で返答するやりとりの力がついたと考えられる。

2度目のパフォーマンステストでは、1回目と比べると正解率の低下が見られるものの、約70%以上の生徒が適切・正確な返答をすることができている。しかし、返答できなかった生徒も5%程度おり、質問の内容も理解できていないと考えられる。

すらすら基礎表現のパフォーマンステストの結果は以下の通りである。

パフォーマンステスト ～ すらすら基礎表現の暗唱テストと筆記テスト ～			
	90点以上	50点～89点	50点未満
暗唱テスト	48.0%	38.7%	13.3%
筆記テスト	20.0%	36.0%	44.0%

暗唱テストにおいては、約半数の生徒が90点以上を取ることができ、86%以上の生徒が50点以上を取っていることから、表現の意味と発音は定着したと考えられる。しかし、筆記テストにおいては、50点未満であった生徒が44%おり、文字としての定着が不十分であることがわかる。

(2) 実力テストの結果からの考察

11月に行った実力テストの正答率は以下のとおりである。

リスニング			
種類	問題数	平均正答率	評価
読まれた英文に合う絵の選択	3問	91.6%	○
日本語解答	3問	81.6%	○
英単語の選択	4問	79.0%	○
適文選択	3問	56.6%	△
英問英答	2問	31.5%	△
その他			
場面に合った英文の選択	3問	86.3%	○
英単語の意味の選択	2問	83.0%	○
適語選択	3問	66.3%	△
内容理解（内容に合う日本文の完成）	2問	55.5%	△
適語補充	3問	48.3%	△
並べかえ	5問	43.4%	△
日本語に合う英文の完成	6問	24.5%	×
対話の完成	3問	13.0%	×
条件英作文	2問	8.5%	×

リスニング問題においても、その他の問題においても、英文の内容理解を問う問題に関しては、高い正答率が見られる一方、単語や英文を書く問題に関しては低い正答率が見られる。誤答の中には、スペルミスがかなり含まれており、問題や何を答えるべきかはわかっているが、正しい記述ができなかったと考えられる。

またリスニング問題に関しては、領域全体の正答率が9月には62%であったものが、11月には71%と、9ポイントの上昇が見られ2学期から始めた本実践がリスニング力の向上に繋がったと考えられる。

(3) 生徒アンケートからの考察

4月と12月に授業アンケートを実施し、結果は以下の通りである。尚、回答はそれぞれの質問に当てはまる度合いを1～4の数字を選ぶ形で行い、4が最も当てはまるというものである。

生徒アンケート結果			
質問	回答内容	4月	12月
「聞く」力がついた	(4と回答)	30.4%	53.8%
「話す」力がついた	(4と回答)	27.8%	39.7%
「読む」力がついた	(4と回答)	27.7%	47.7%
「書く」力がついた	(4と回答)	38.0%	39.7%
英語が好きだ	(3又は4と回答)	76.0%	92.3%
英語が得意だ	(3又は4と回答)	39.3%	59.0%

今後の意欲について		
	4と回答	3と回答
「聞く」力をつけたい	79.5%	19.2%
「話す」力をつけたい	87.2%	7.7%
「読む」力をつけたい	85.9%	10.3%
「書く」力をつけたい	85.9%	7.7%

4技能全てにおいて、力がついたと実感している生徒が増えている。特に「聞く」力については、半数以上の生徒が選択肢の4を選んでおり、伸び幅も約23ポイントと最も高い数値となっている。続いて「読む」力については、4月段階で最も自己評価が低かったものが、20ポイント高くなっており、半数近くの生徒が力が付いたと感じている。一方、「書く」力については伸び率が最も小さく、力がついていないことを生徒自身も感じていることがわかる。

英語に対する意識については、3又は4を選び、英語が好きだと思う生徒も英語が得意だと思う生徒も増えている。又、これから伸ばしたいと思う力については、4技能の全てにおいて約80%以上の生徒が選択肢の4を選んでおり、英語学習への意欲の高さが見られる。

9 成果と今後の課題

- インプットからアウトプットへとつなげるサイトトランスレーション・シートを用いた段階的なペア学習は、「聞く」力、「読む」力、「話す」力（やりとり）をつける上で有効であったと考えられる。特に、「聞く」力と「読む」力については、力が付いたと考える生徒（アンケートにおいて4と回答）の割合が20ポイント以上高くなり、実力テストにおいても同様の傾向が見られる。よって、このペア活動が、出題された英文を聞いたり読んだりして理解する力を伸ばすために有効であると考えられる。
- 英問英問を扱った「すらすら英会話」においては、サイトトランスレーション・シートを用いて意味内容がわかるやりとりを繰り返し行うことで、後半は例文を利用した即興的なやりとりを行うことができ、ペアの発話に意識をむける必要があることから、その活動がアウトプット活動であると同時に、意味のあるインプット活動となっ

た。また、英語に対する感情も好意的なものとなっており、今後の活動に対しても意欲的である。友達と普段のことについて、英語を用いてやりとりするこの活動は、生徒には興味を維持しながら取り組めるものであり、使用される語彙や言語材料に習熟させるために有効であると考えられる。

- 今回の実践においては、「書く」形式でのアウトプット活動が不足しており、有効性は見られなかった。例文をそのまま書く筆記テストに限らず、使用される語彙や言語材料を活用して自己表現ができるような活動やパフォーマンステストを実施する必要があると考える。
- 「話す」力については、「やりとり」としての活動は十分であったが、「発表」する活動やパフォーマンステストが行えなかった。「すらすら基礎表現」の活用方法を工夫し、ある程度まとまりのある内容を全体やグループの中で発表し、お互いに内容を理解し合うような活動を仕組む必要があると考える。
- 以上2点の課題は、本実践が2学期からのスタートとなったことが一因であると考えられる。今回不足した活動等を補うためにも、年間を通して定期的なサイクルとして実践を構成し直す必要があると考える。「書く」活動と「話す」活動は関連させて連続的に行うことができるであろう。また、どちらも語彙や言語材料の習熟が必要な活動であるので、サイクルの終盤に位置づけることがふさわしいと考える。

◎ 参考文献

- 山本崇雄(2019)『「教えない授業」の始め方』アルク
- 滝沢広人(2013)『5分間トレーニングで英語力ぐんぐんアップ！中学生のためのすらすら英会話100』明治図書出版
- 池岡慎、中嶋洋一、三浦孝(2006)『ヒューマンな英語授業がしたい！－かかわる、つながるコミュニケーション活動をデザインする』研究社